

「災害発生時における遠隔地での連絡手段について」

波平 夏希

要旨

多くの島により構成され、自然災害の発生が多い日本にとって、災害発生時に連絡手段が途絶されてしまうと、救援・救助を要請することはおろか、被害が発生していることすら伝えられないのである。現在、連絡手段として確立されているものは、防災行政無線とファクシミリである。仮に停電が発生し不運にも非常用発電機が故障してしまうと、この2つは使用できない。実際にそのような事例があった。

以上のことから、本研究では災害発生時において従来の連絡手段に代わる連絡手段はあるのか、またその手段を調査した。

調査の結果、衛星回線に頼っている自治体が多く、停電や通信基地局が使用不能となった事態が発生した際の対処策やそれ以前に未然に防ぐための予防策が必要であることの課題を明らかにした。